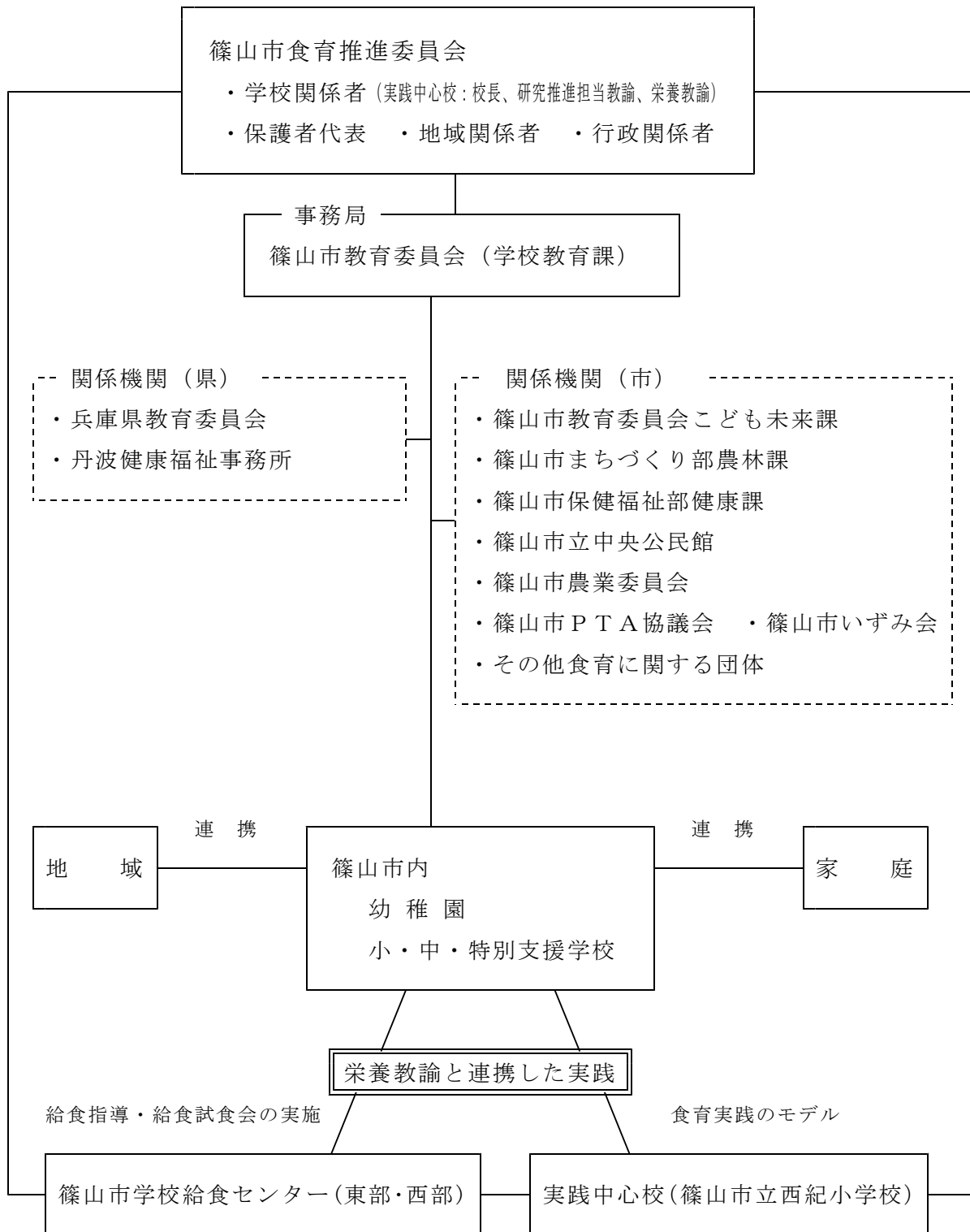


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	兵庫県
推進地域名	篠山市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 各教科等における食に関する指導を充実させるための取組

- 各学校の食育推進体制を確立し、食に関する指導の全体計画と年間指導計画の作成や見直しを進めるとともに、地域住民等の支援を得て、食育の授業や体験活動を行った。
- 栄養教諭打合会を実施し、市内学校の食育推進に係る方向性や具体的な内容について協議した。
 - ・食育担当者会
 - ・食育推進大会
 - ・食育教材
 - ・アンケート
- 本市の栄養教諭と隣の丹波市の栄養教諭が、食に関する指導の実践を交流し、学習の進め方や効果的な教材の活用など、教科等における取組について研修した。(年間4回)
〈実践例〉
 - ・第2学年生活科 「やさい大すき～やさいのはたらきを知ろう～」
 - ・第3学年体育科 「けんこうな生活」
 - ・第3学年学級活動「朝ごはんのひみつをさぐろう」
 - ・第4学年体育科 「よりよいからだの育ち」
 - ・第4学年学級活動「おかずを組み合わせるバランスよく食べよう」
- 栄養教諭が要請に応じて勤務校以外の学校へ出向き、食育担当者や学級担任、教科担任と連携して、指導資料や教材の提供、ティームティーチング等による食に関する指導の充実を図った。

《西紀小学校の取組》

- 研究テーマ

命と心、食を通して考えよう ～ふるさとを見つめ、学び合う西紀っ子～

- 各学年の取組

- ・第1学年生活科「やさいのおなか」
- ・第2学年生活科「やさい大すき」
- ・第3学年総合的な学習の時間
「篠山の特産物博士になろう！
第三章～豆・芋パワー発見～」
- ・第4学年体育科「育ちゆくわたし」
- ・第5学年総合的な学習の時間
「ふるさとの味 郷土料理について知ろう」
- ・第6学年学級活動「かむことの秘密」



- 学校給食の取組

- ・学級担任による指導

給食指導年間計画に基づき、児童の発達段階に応じて指導する。

- ・栄養教諭による給食の時間の指導

栄養教諭が各学級に入り、一緒に給食を食べながらより良い食べ方や食べ物、献立、調理の様子についての話をする。

- ・会食の工夫

お花見給食、なかよし給食、招待給食、お別れ給食

- 研究発表会

- ・平成22年10月29日(金) 於：西紀小学校
- ・給食参観、授業公開、健康福祉事務所情報提供、研究発表、講演会

講演会講師：兵庫農漁村社会研究所代表 神戸大学名誉教授 保田 茂 先生

※兵庫県教育委員会・兵庫県体育協会指定の「学校給食を活用した食育推進事業」として実施

テーマ2 学校・家庭・地域が連携した望ましい食習慣を形成するための取組

○各学校において、地域の農業従事者と連携した農業体験活動を進め、子どもたちが食べ物の大切さ、農業の重要性等について食と農を一体的に体得する教育を行っている。

・米作り ・さつまいも作り ・黒豆作り ・茶摘み ・栗拾い

○学校給食センターでは、地産地消の取組に力を入れている。野菜は旬の味を大切に、篠山の特産物を随時取り入れ、米は篠山産コシヒカリを使用している。地元の食材や特産物を取り入れることによって、学校給食が「生きた教材」になっている。

○幼稚園や小学校で保護者等を対象とした給食試食会を実施し、家庭における食習慣の改善について啓発している。



《篠山市食育推進大会の開催》

○市全体としての食育の取組を広げ、つなげていくことを目的として「篠山市食育推進大会」を実施した。食について考え、学校・家庭・地域が連携した食育のさらなる推進に役立てるため、実践発表、講演、郷土料理等の試食、パネルディスカッション、関係団体による展示を行った。実践発表では、実践中心校による取組の発表を行い、パネルディスカッションではパネリストの一人として栄養教諭が市内の学校や給食センターにおける取組の状況を紹介し、参加者からも良い評価を得ることができた。

篠山市食育推進大会

・テーマ もっと広がる もっとつながる 食育
～未来へつなぐ 子どもたちのために～

・主催 篠山市 篠山市教育委員会

・共催 丹波篠山 食の未来塾

・日時 平成23年2月27日（日）10:00～15:00

・会場 篠山市立四季の森生涯学習センター

・内容

第一部 「食の現場から」と題した実践発表

篠山市いずみ会（地域の取組）

篠山市保健福祉部健康課（行政の取組）

篠山市立西紀小学校（学校の取組）

第二部 講演 「今こそ考える！『食べる』ということの大切さ」

講師 神戸女子短期大学 平野直美准教授

昼休憩 郷土料理等の試食と販売

第三部 パネルディスカッション

コーディネーター：中塚華奈（NPO法人 食と農の研究所）



テーマ1～2に共通する具体的計画

- 「篠山市食育推進計画」に基づいた食育を推進する。
- 実践中心校や食育を推進している学校の先進的な取組を市のホームページ等で紹介し、研究の成果を広めるとともに、各学校や幼稚園が自由に活用できるようにする。
- 「朝から元気 朝食摂取率100%」の取組を推進するため、朝食を題材にした授業を保護者に公開したり、懇談会で取り上げたりするなど、朝食の大切さについて保護者に啓発していく。
- 食育推進大会などで、食育についての共通理解や啓発を図り、市全体で望ましい食習慣や生活習慣づくりを進める。

◆平成23年2月に実施した「篠山市食育推進大会」の参加者の感想からは、篠山市における食育の取組が今後さらに広がっていくことを感じさせる肯定的なものが多く見られた。

- ・各方面からの取組を聴き、それぞれのつながりの大切さを強く感じた。
- ・西紀小学校の1年生から6年生までの全児童の取組に感動した。
- ・地域で食に取り組んでいる皆さんの話が聴けて良かった。家庭もこれを受けて、さらに充実した食卓をめざしたい。
- ・子どもの時の食事の大切さを実感した。
- ・それぞれ自分たちだけではできない限界がある。つながりの中で篠山の食材が生かされ、食育に生かされることになるのだということを感じた。
- ・多くの関係者、行政、教育委員会等の連携により実施され、その意気込みが伝わってきた大会だった。



数字で変化のあった事項について

○学校における指導体制等の整備状況

(平成22年1月⇒平成22年5月⇒平成23年1月の比較)

・校内指導体制の整備（食育推進委員会等の設置）	96%	⇒	100%	⇒	100%
・食に関する全体計画の作成	80%	⇒	87%	⇒	91%
・食に関する年間指導計画の作成	56%	⇒	56.5%	⇒	61%

校内における食育指導体制はすべての学校で整備されている。また、全体計画の作成率増加については、中学校での作成が増えたことによるものである。それぞれの学校で食育推進についての共通理解を図り、具体的な取組が積み重ねられている。

○食育に関するアンケート結果（抽出校）【平成22年度の6月と1月の調査結果より】

[児童]

- ・朝食を毎日食べている（94%→96%）
- ・朝食はごはんとパンのどちらをよく食べるか（ごはん42%→48%）
（パン35%→23%）
- ・夕食は家族揃って食べる（56%→59%）
- ・給食の時間は楽しい（84%→88%）
- ・はしの持ち方は正しい（59%→64%）
- ・食事作りの手伝いをほとんど毎日する（25%→38%）

[保護者]

- ・食事のあいさつをさせている（89%→92%）
- ・できるだけ親子で食事を作るようにしている（48%→54%）
- ・夕食を楽しく食べることができるよう雰囲気作りをしている（69%→72%）

○「朝食を毎日食べているか」（平成21年度⇒平成22年度 の比較）

・小学6年生	88.3%	⇒	88.8%
・中学3年生	85.0%	⇒	88.8%

※全国学力・学習状況調査結果より

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○実践中心校においては、学習プログラム案の作成・改善により組織的、計画的、継続的に食育が実践できるよう環境を整え、誰がどの学年を指導してもさらに工夫した授業ができるようになってきている。また、食育を継続的に行うことで、食習慣や生活習慣が少しずつ改善され、朝食を毎日食べる児童、早く寝て早く起きる児童が増えてきている。さらに、生活習慣の改善はもとより、学習意欲や学力の向上に結びついていることも分かった。そして、郷土料理の良さを知り、地域の方の支援によって、郷土を大切にしようとする心情が育ってきた。

○これまで教育委員会の事業として行ってきた「篠山市食育推進大会」を市長部局と連携して実施することにより、市全体の取組として食育の啓発をすることができた。その中で学校や地域のそれぞれの取組を交流することができ、今後の食育を推進するうえで広がりやつながりが期待できるものとなった。大会の継続開催を希望する声もかなりあり、関心の高まりも見られた。また、昼休憩時には、篠山の特産物・食材を使った郷土料理などを‘試食’という形で提供し、味覚の上でも交流を図ることができた。



今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○食育の推進における栄養教諭との連携の在り方
栄養教諭の所属校以外での食に関する指導等により、各学校での食育の取組が広がってきている。しかし、栄養教諭が市内のすべての学校へ出向いて一律に指導することは難しい。実践中心校での取組の成果を活用して、各学校の食育担当者等が中心となって、栄養教諭と連携しながら食育の推進を図ることが大切である。



○基本的な生活習慣の確立と家庭との連携

給食試食会の実施、食育だよりによる情報提供、学校給食の献立を生かした親子料理教室の開催等により、保護者に対して食育に関する啓発を行ってきた。食育への関心は徐々に高まり、児童生徒の食生活にも改善が見られるようになり、早寝早起きを基本とする生活習慣もしっかりと身についてきている。今後も家庭への具体的な働きかけを行い、連携を深めながら、「朝から元気 朝食摂取率100%」の取組を充実させていく必要がある。



○市全体としての組織的、計画的な食育の推進

今回実施した「篠山市食育推進大会」では、市と教育委員会のそれぞれの食育担当者が何回も協議を重ねるなかで横のつながりを築くことができたので、それをもとに一歩進んだ食育の進め方を考えていかなければならない。特に、子どもを持つ保護者の意識をいかに高めていくかが大きな課題である。